

中国四国農政局入札等監視委員会 定例会議(第3回) 審議概要

(ホームページ掲載日:平成21年12月24日)

開催日及び場所		平成21年11月25日(水曜日)中国四国農政局 10階 第8会議室	
委員		西田 三千代 (弁護士) 藤井 弘章 (民間研究所:代表) 守屋 明 (大学教授) 皆木 英也 (民間団体:専務理事)	
審議対象期間		平成21年7月1日～平成21年9月30日	
審議対象案件		234件 うち、1者応札案件 11件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 2件	
抽出案件		5件 うち、1者応札案件 2件 (抽出率 2%) (抽出率 18%) 契約の相手方が公益社団法人等の案件 1件 (抽出率 50%)	
抽出 案件 内 訳	工事	一般競争	1件 うち、1者応札案件 1件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		指名競争 工事希望型競争	1件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
	業務	指名競争 その他の指名競争	1件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
		物品 役務 等	一般競争
	随意契約(企画競争)		1件 うち、1者応札案件 0件 契約の相手方が公益社団法人等の案件 0件
	(特記事項)		なし
委員からの意見・質問、それに対する回答等		意見・質問	回答等
		<p>(1) 審議事項に入る前に事務局からの説明事項 ・「再度入札における一位不動状況」が資料として加わった理由について</p> <p>・1位不動状況の動向を示すことをもって、入札談合の防止対策として審議することにはならないので、理解できない。</p> <p>(2) 低入札価格調査を行った工事(2件)及び業務(4件)について</p> <p>・調査結果において、「安価な資材購入等により品質保全・安全管理は可能」との判断は、具体的な裏付けに基づくものなのか。</p> <p>・安価に施工できる理由の一つとして、「同時期に近距離で関連工事を施工していることから可能」としているが、それにしても落札率が46.3%と非常に低いことから、低価格への歯止め策を設ける必要があるのではないのか。</p> <p>(3) 抽出事案：斐伊川沿岸農業水利事業 平田船川汐止堰ゲート製作据付建設工事について</p> <p>・1者応札となっているが、「鋼構造物工事」の応札要件を備えた25社の営業エリアはどこか。</p> <p>・入札の条件設定を変えることは考えられないのか。</p> <p>・1者応札で競争性がなかったことから、落札率が97.96%と高率となったのではないのか。</p>	

	意見・質問	回答等
	<p>(4)入札談合及び苦情処理について</p> <p>・今回の談合疑義情報は、工事受注を望む者が他の指名業者への落札を案じて、発注工事の内容を確認したものであり、談合にはあてはまらないのではないのか。</p> <p>(5)抽出事案：平成21年度中国四国農政局管内農業基盤生態系調査分析業務について</p> <p>・「田んぼの生きもの調査」は、平成13年度から継続して実施されているが、調査の取りまとめ・分析結果は、どのように生かされるのか。</p> <p>・業務を受託した(社)農村環境整備センターとは、どこが所管する公益法人で、どのような仕事を行う組織なのか。</p> <p>・この調査に、地域子ども達が参画するのは、どのような意味合いがあるのか。</p>	<p>・道前道後平野農業水利事業 志河川ダム整備工事において、入札を8月12日に予定していたところ入札前に談合を疑う情報提供があり、公正入札調査委員会において審議した結果、談合の事実はないと判断した。</p> <p>・予定した入札は取り止め、新たな入札は8月31日に公告され、10月16日に入札執行を実施した。</p> <p>・電話での情報提供では信憑性が定かでないことから、入札を延期し事情聴取を行い事実関係を確認した。</p> <p>・談合情報については、信憑性の如何に関わらず公正入札調査委員会において審議することとしている。</p> <p>・希少種、在来種の分布状況を一齐に調査することで、生きものの生息状況とその環境との経年変化を把握することにより、国営、県営の農業農村整備事業における生態系へも配慮した施設整備の基礎資料として活用している。</p> <p>・農水省の所管する公益法人で、農業と環境、自然生態系などを学術的に調査・研究を行っている。</p> <p>・次の世代を担う子ども達へ、水田機能がもつ多面的役割や農業農村整備事業の必要性についての啓蒙普及にも取り組んでいる。</p>
委員会による意見の具申又は勧告の内容	該当なし	